

NETWORK

2010年“ひともうけ”情報化社会の風景	2
「公」の資金、「民」のノウハウの活用	
テーマパーク運営会社にみる公民共同事業の例	5
地域の顔なじみの人と会うのが楽しい！	
福岡県杷木町のミニディの取り組み	8
「よかネット」への御意見、近況などを皆様に	
寄せていただきました	10

NO.40 ～ 1999.7	見・聞・食、で、話の人のいとうちやんばつあつめいもの、おいしい話、大集合！	
(株)九州地域計画研究所	第7回よかネットパーティ	12
津屋崎～玄海～岡垣ルート(国道495号)	14	
近況	椎葉秀行さん・クニ子さんに会うのが目的の観光	16
盲学校でハーブ園づくり	17	
中心市街地活性化について	18	
～九Qの会・平成11年度例会から	18	
所員近況	18	
新人紹介	20	



美味しい一品、楽しいお話、自慢の腕前、いろいろな参加がみられました。

～第7回よかネットパーティー～

- ①自慢の手料理を自分で盛りつけ。
- ②某研究会は竹炭の即売で1万円の売上げ。貴重な活動資金に。
- ③当事務所手製のかべしんぶん。椎葉での感動を報告。
- ④蕎麦切りのお手伝い。香り、喉越しともに評判でした。
- ⑤開始1時間前から材料を広げ本格的エスニックスープづくり。

全体	①
コメント	②
③	④
⑤	



2010年“ひともうけ”情報化社会の風景

糸乘 貞喜

インターネットのアドレスを持っていても、誰もアクセスしてくれない人もいる。山のかなたの不便な所に住んでいても、わざわざたくさん的人が訪ねてくる人もいる。7~800年昔の話だが「をのをの十余〇日ヶ国のかひをこえて、身命をかへりみずして、たづねきたらじめたまふ御こゝろざし」と親鸞が述べている（歎異妙）。結局「情報化社会」というのは、人間の魅力のことかな。

(1) CDに卵を乗せて－情報化社会を行く－

卵を乗せてくれない。私はチャッカリ、お店でいただいた。卵売場を拡げたのではなく、待合室をつくって、コーヒーやお茶のサービスをしたら、売上げが2倍になったという話を聞いて、モノの売上げ増加の理由が“売場”ではないところが面白いと思った。

早速、紹介していただいて話を聞きに行った。北九州小倉南区湯川の卵屋（らんやと呼ぶ、TEL：093-931-5155）である。

見出しつけたCDと卵の話は、当主の笠田和代さんの話である。「東京のお客さんから、CDが30枚と卵の贈り先のリストが送られてきましたね」卵の包装の中へ、CDを入れて贈ってくれという注文。そのCDは「卵かけ御飯」という柳家小三治のトークショーのライブ版である。この贈り物を受けた人たちの夕食の風景が見えるようである。

卵屋は、4年前（平成7年）に4人のオバチャン（と笠田さんが言われた）で始めて、今では18才の若い娘さんも働きに来るようになり、28人が働いている。

もともと卵屋（たまごや）なのだが、高品質な卵にこだわり、それを生かしたカステラやショートクリームなども作るようになった。そしてカステラとショートクリームが、売上げの半分にも達している。正月の1日から9日まで休む以外は年中無休で、大変だなと思ったが、極めて元気印の人たちだった。

ショートクリームは、2時間以内に食べる人でないと売

の方は、品質が良いのでギフトに使われることが多い。卵のネーミングは「庭先たまご（有精卵）」で始まって、「初生みたまご」、「福福たまご（ふたつ玉）」、「温泉たまご」、「ハッピーエッグ（くんせい卵）」などたくさんの種類がある。ギフトとしては、快気祝、出生祝のおかえし、結婚式の引き出物としてはじめに送っておく（当日持ち歩くのは大変なので）などといった注文が多い。

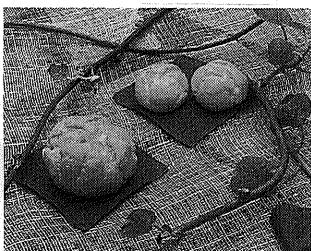
持参するためのギフトを買う人も多く、その場合はショートクリーム、カステラも入る。したがって商品を取り揃えるのに、お客様が取り合わせを考えられるため、かなり時間がかかることが多い。ついで待つてもらう客も増えることになり、申し訳ないので、待ちスペースとトイレを作り、コーヒーとお茶を無料で出すことにした。その所為か、クチコミの所為かはわからないが、今年は去年の2倍の人達が来てくれている。

私が言いたいのは、待ちスペースの件にしても、卵の品質にこだわっていることも、柳家小三治のCDの話も、これは単なるモノ売りのことではないということである。“思いやり”とか“気配り”を送るサービス業の域に達している。

2010年は“気配り・思いやり・願望”的時代である。

(2) 山のかなたの情報センター
(宮崎県椎葉村の焼畑・民宿の椎葉夫妻)

5月中旬、椎葉村へ出かけた。福岡の天神から都市高



左中) たくさんの種類の卵が楽しいパッケージで送られてくる (卵屋パンフレットより)
右) 柳家小三治のCD～玉子かけ御飯の話が出てくる

役員異動のごあいさつ

謹啓 盛夏の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社は、1976年に(株)地域計画建築研究所九州事務所としての活動開始、1982年現地法人(株)九州地域計画研究所設立以降、17年の間、多くの方々のご支援により、地域に根ざした知のネットワーク拠点としての基礎づくりを行ってきました。この地域ネットワークのさらなる拡大と強化をめざして、1997年糸乘、山田の2人代表取締役体制、そして1999年、山田、山辺の代表取締役、伊藤、尾崎の取締役の体制で経営にあたっていくことといたしました。なお、糸乗は、これまでの全国での活動で培ってきた知恵とネットワークを生かしながら、これまで以上の強力なサポートを展開していく予定です。

所員一同、今までお世話になった方々、地域とのご縁を大切にし、各自“思い”をもった地域づくりをより積極的に行っていきたいと思っております。

このため、より所員一人一人の力量の向上とネットワークづくりを進め、皆様の期待を裏切らないよう努めていく所存でございます。今後ともみなさまのご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申しあげます。

平成11年6月



謹白

株式会社 九州地域計画研究所
代表取締役社長 山田 龍雄
代表取締役専務 山辺 真一
取締役 伊藤 聰
取締役 尾崎 正利
取締役 糸乘 貞喜

速道路で約15キロ、太宰府から九州自動車道で約100km南下すると熊本の御船インターチェンジへ着く。そこから一般道路で70km余りで椎葉村の「中心市街」と道路標識で案内された集落に着く。そこから、ちょいちょい行き違い用の場所のある狭い道路を、道を間違えながら車で約1時間半で「民宿焼畑」に着く。天神を朝8時に出で、途中で「通潤橋」を見たり、そばやダゴ汁の昼食を取ったりして行ったので、標高900mぐらいの「民宿焼畑」へは午後4時頃着いた。差し詰め陸の孤島とでもいうところで、確かに離島を除くと、九州でも最も到達しにくいところだ。

ところが、ここが「山の暮らし、山菜の見分け方、食べ方」などについての、高品質で大量の知的情報のセンターとなっている。その中心が椎葉秀行(76歳)、クニ子(75歳)夫妻である。情報サービスの営業開始は民宿に着いたらすぐに始まり、以下次のように展開する。

- ①着いたらすぐに追い出されて、ワラビやゼンマイを取りに行く。スカンボを割ってかじったりもする。
- ②夕食は豪華版だ。天ぷらだけでも16種類の山菜がつく。さらに、おひたしや和えもの、煮もの、魚の焼きものなど、解説を聞きながらいただける。
- ③夕食後は焼酎を飲みながら、クニ子さんが昭和21年にこの家に嫁に来たとき、兄弟が10人おられたので、全員で14人家族だったことなど、日本の山村の近・現代史の実話講義が続く。
- ④夜中、冷えていたので小用を足しに外に出る。一面闇の世界だが、頭上一杯に広がる星の世界。連れの

みんなは知らずに寝ており、何となく自分だけトクしたような豊かな気分で布団に戻る。

⑤翌朝はまた、秀行さんから山の暮らしの話を聞くことができる。

⑥さらに運が良いと、庭でクニ子さんから庭や道端の何十種類もの草や花の特徴、食べ方などを聞くこともできる。

⑦もちろん朝の味覚も、文化的欲求を満たす。

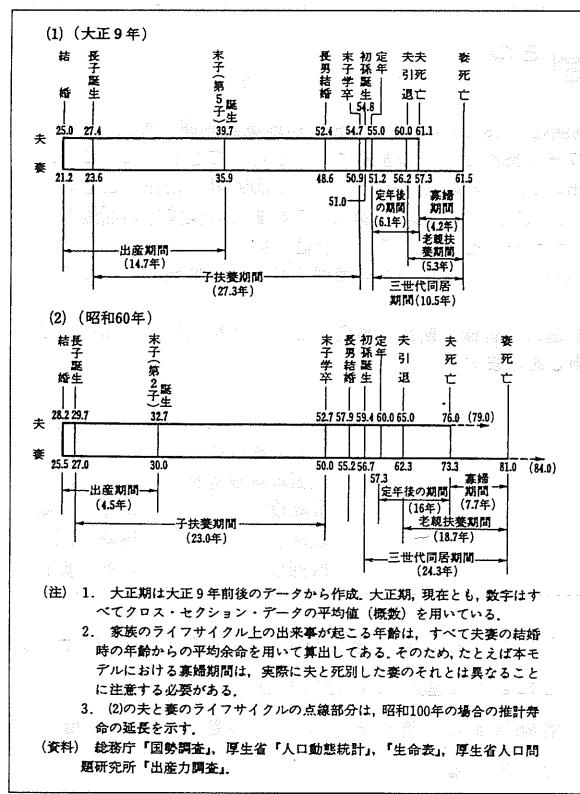
我々の目的も、この御二方に会って、元気な顔を見せていただき、上記の情報に接することだけだった。十分に満足した。

ここでは、同じような目的で来た別のグループや、テレビ会社の取材班も来ていた。品質の良い情報があれば、結局人々がそれを求めて、どんな不便なところへでも出かけて来るということが実証されていた。

ついでながら、クニ子さんからの書き書きによる「おばあさんの植物図鑑」「山の暮らし日記」という見事な本が出ている。御一読いただきたい。

(3)経済学のライフサイクル仮説や、最近の中高年人々のアンケート調査で考えると、2010年にはモノが売れなくなっている

戦争前と戦後のライフサイクルの変化を図表1の(1)と(2)に示す(「日本の人口、日本の社会」昭和63年版、人口問題研究所編)。ライフサイクルというのは、結婚、長子誕生、末子誕生、孫の誕生や離職、配偶者の死亡などを経て、本人の死亡に到るプロセスのことである。



図表1 戦前、戦後の家族のライフサイクルの変化

経済学のライフサイクル仮説は、消費が所得だけによって決まるのではなく、若いときは老後に備えて貯蓄し、引退後それを崩して使う……というような説明である。消費財、とくに耐久消費財などは若い世帯と高齢世帯では明らかに違う。

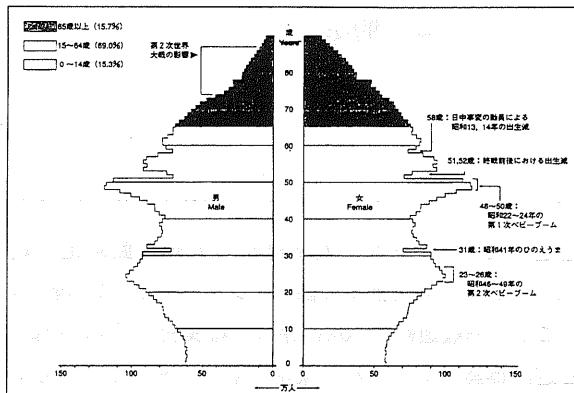
図表1-(1)の大正9年には、5人の子どもの扶養期間が27.3年で、それが終わると初孫をみると同時に定年を迎える。その後5~6年で死亡している。消費という点でみると、人生のほとんどの期間を通じて5人の子育て養育のための支出が続いたことになる。それが昭和60年には、2人の子どもに対して、23.0年に短縮され、養育が終わってから夫で23~4年、妻で30年生き続けることになっている。この扶養義務後には耐久消費財などの消費性向はずっと下がるにちがいない。

もうひとつ「女性のライフコース:4つのパターン」という表がある(図表2)。これによると1972年と89年の間に専業主婦が大幅に減ってパートタイム就業再参入型が大幅に増えている。1972年頃は合計特殊出生率が2.0以上であった(つまり既婚者みると3.0以上が相当あったことになる)。しかし1989年になると、そ

	1972年	1989年
I. 不就業型 ^①	卒業 薩摩・出産 死亡	7.8% 1.9%
II. 専業主婦型 ^②	卒業 武藏・出産 死亡	30.9% 14.2%
III. 再参入型 ^③	卒業 薩摩・出産 育児終了 退職 死亡	39.5% 64.2%
IV. 繼続就業型 ^④	卒業 武藏・出産(または両方) 退職 死亡	11.5% 14.4%

(資料) 経済企画庁 1992。
(注) ——はフルタイム就業、——はパートタイム就業、……は不就業を示す。パーセンテージは、1972年は18歳以上、1989年は20歳以上の女性が望む以下のような就業パターンの回答割合。()内は上記四つの型に対応する。
1) 就業をもたないほうがよい(不就業型)
2) 就業をもち、結婚・出産を契機として家庭に入るほうがよい(専業主婦型)
3) 就業をもち、家庭や出産などで一時期家庭に入り、育児が終わると再び就業をもつほうがよい(再参入型)
4) 就業をもち、結婚や出産の後も仕事を続けるほうがよい(継続就業型)

図表2 女性のライフコース:4つのパターン



図表3 我が国の人口ピラミッド(H9.10.1現在)

これが全体で1.5くらいに下がってしまった。この傾向が変わらないものとすれば、成人夫婦は2人だけを前提とした消費に向かうにちがいない。

いずれにしても、戦後の日本の消費をリードした第1次ベビーブーム世代は、2010年には60~64歳になっている。モノ消費をリードした世代が、今後はモノばなれ消費をリードすることになるだろう。そして、アンケートなどによると、この世代は、いわゆる「子どもに美田を残す」ような考え方はないらしい。

いよいよモノより遊びに対する消費が主流になりそうだ。さらに言うと、この次の第2次ベビーブーム世代も、2010年には35歳ぐらいになっている。そもそもモノ離れ世代に入りつつある。正確に言うと、日本の生活パターンの大転換が、ひと区切り終わるのは2015年だろうが、その動きは今からジワジワ始まりつつある。

都市開発事業などは、うまくいっても5年、多くの場合は10年近くかかる。仮にモノ売り施設の計画をしたとしても、店が出来上がる頃には、上記の動きが一層はっきりしていることになる。もちろん、計画の中でサービス型施設への転換を読み込んでおけばいいのだが。

「公」の資金、「民」のノウハウの活用 テーマパーク運営会社にみる公民共同事業の例

山辺 真一

日経ビジネスの5月31日号に「都会の人間に農村体験の場を提供—「公」の資金、「民」のノウハウ活用」という記事が出ていた。この取材の対象は、「㈱ファーム」という自然系テーマパークの運営会社である。偶然ではあるが、この㈱ファームの人に話を聞く機会があったので、紹介したい。

3年ほど前から福岡市内で自然型施設の計画づくりの手伝いをしている。花をテーマにした自然体験型公園づくりであるが、その参考として話を聞きに行った。「長崎市いこいの里—あぐりの丘」の運営に参画していくのがこの㈱ファームであった。

この施設の話を聞きたいと思ったのは、入場料金は無料、施設の運営に第3セクターが絡んでいるということを聞いたからである。しかし、実際には、第3セクターは絡んではいるものの、施設の経営という点では、全てこの㈱ファームに任せられていた。

話を聞いたのは、あぐりの丘の経営を任せられている「㈱ファーム」の人だったが、聞いた話をもとに筆者の想像で書いている部分もあるので先にお断りしておきたい。

●地元の人にとってはすぐそこだが

あぐりの丘は、長崎市内ではあるが、中心部から車で30分程度の郊外にある。場所は、長崎をあまり知らない人にとっては、非常にわかりづらいところだった。簡単に言うと、長崎市の中心地の北西部にあり、市電

の終点「赤迫」電停から国道を北に5分くらい走り、長崎新魚市場の方に向いて、西方向に曲がってからすぐに南へ下る。そこから先は住宅地区を通るが、本当にこの道で良いのかと不安な気持ちを押さえつつ、所々に立つ道順の看板を頼りに約15分走って到着する。

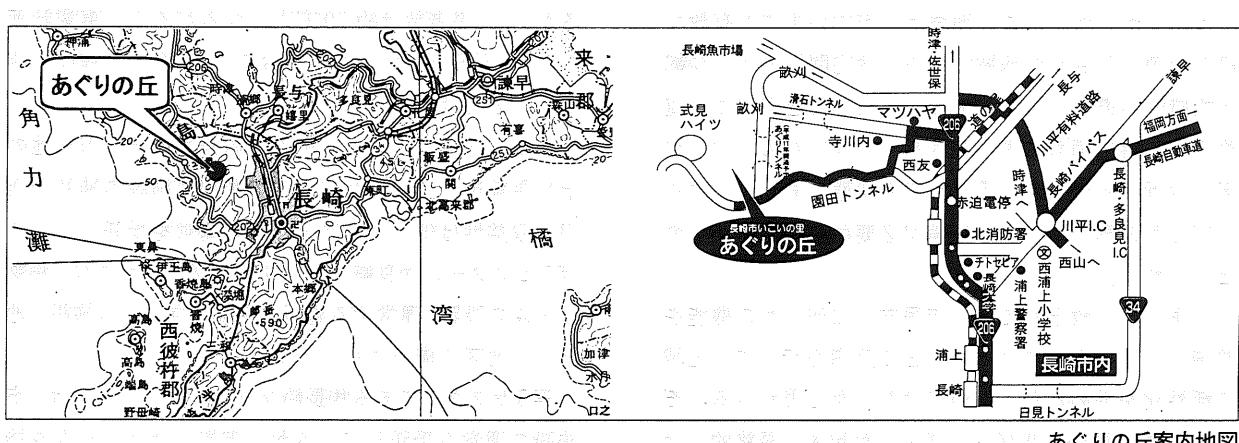
実は、そこへ最初に向かったときは、道を間違え、新魚市場の方をぐるりと回り道をして、パンフで書いてあるように30分では着けなかった。たぶん、長崎に住む人にとってはすぐそこのくらいのイメージで、ちなみに福岡でいえば「油山観光牧場」の感覚かなと思った。

しかし、こういう施設へのアクセスのメインルートが住宅地の中というのは問題があったらしく、現在「あぐりトンネル」という新しいアクセスルートが市によって建設されている。

●リゾートブームの資産を活用

もともとこの地区は、長崎市の育成牧場用地であり、畜産農家から子牛を預かり、成牛になって農家に返すというための牧場であった。しかし、預託牛、畜産農家の減少によって、牧場は廃止され、跡地利用計画として昭和56年に「いこいの里構想」が策定されている。その後、リゾートブームがおこり、昭和62年にリゾート法施行、昭和63年には長崎のリゾート構想の中で、この地区は重点整備地区の一つに指定されている。この時、某ゼネコンが事業母体となる第3セクターの中核となるが、バブルの崩壊とともに、本体の経営悪化を理由に、事業から撤退し、当初策定されていたゴルフ場や遊園地型公園の計画が見直された。

この見直しの時に、市から㈱ファームに整備手法等の相談をされたのが平成8年で、今のような自然型、農業公園として整備され、オープンしたのが平成10年7



あぐりの丘案内地図

月である。現在の計画に見直されてからわずか2年で、こここの施設は完成している。

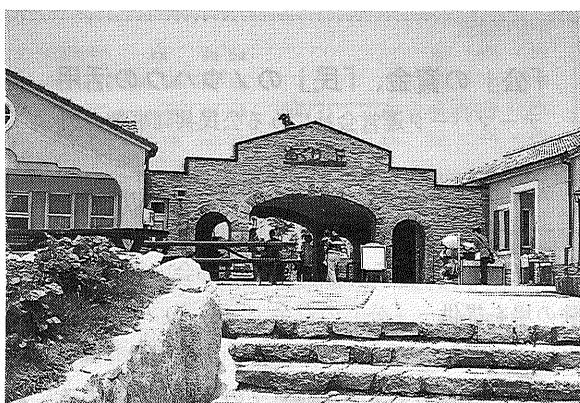
●開業準備は短く

これほど短期間で完成した理由の一つは、地区全体の開発許可が既に平成5年当時の最初の時点から得られており、当初計画の変更で済んだこともあるが、許認可自体は行政が主導して行っており、非常にスムーズに許可が下りたこと（いわゆる関係機関への根回しのうまさ）、さらに重要なのは、第3セクターの事業ではなく、(株)ファームが事業参加、経営参加をしたため、できるだけ工事期間を短くする努力、早期の開業に向けた努力がなされたという点である。この短期間の開業までの準備期間に、(株)ファームは、この施設の運営に関わる人材募集を地元で行い、しかも一年間は国内の他の(株)ファームの施設での研修を行うなど、運営ノウハウの習得のための研修も行われている。「民間企業にとっては投資をいかに早く回収するか、金利負担をいかに押さえるかがポイント」と言われた。いずれにしても、リゾートブーム時の資産をプラスに転じ、かつ民間の参画を得られたという点がこの事業を短期間で実現したことによく寄与している。

●市民のため準公共施設

この施設が長崎市にとって重要であり、準公共施設的な扱いとも取れる入場料無料となっているのには理由がある。ご存じのように、長崎市はもともと地形的な制約もあって、平地と呼べる部分が少なく、そのため市民の憩いの自然空間と呼べるもののが少ない。そのため、市内にあったこの大規模な遊休公有地の活用によって、そういう空間を提供したいという市民ニーズ、行政のニーズがあったと想像される。そのことが、まずこの地区の整備方針を左右している。そして、話には出なかったが、この地域は、市内の中でも有数な緑の資源が残された地域であり、住宅開発のような都市的機能の導入にはなじまなかったことと同時に、道路等の基盤整備もあまりなされていないため、中心地区には近いとはいえ、手つかずの状態であり、いずれは何らかの形でインフラ整備が必要になっていったものと思われる。

つまり、行政としては、市民向けに何らかの機能を整備し、その際にアクセスなどの整備を行って、地域の活性化を進めたかったのではないかと思われる。そこにうまい具合にリゾートブームが起き、最終的には



欧洲風を模した建物（入口部分）

自然体験型施設の運営ノウハウを持った(株)ファームの参画が得られたため、周辺基盤投資を行い、この施設は準公共施設としての「憩いの場」という位置づけとなり、入場料は取らないということになったのだろうと思った。そういう意味も含めて、「ハウステンボスやオランダ村とは競争してません。ここは観光施設ではなく、のんびりしに来もらう施設です」と言われた。

●(株)ファームはどうやって経営しているか

しかし、市民の憩いの場というだけでは、入場料は無料とする理由にはなっても、経営を無料でもやれるかどうかは別である。実際には、運営補助金のような形で行政から何らかのサポートがあるのではないかと聞いたが、(株)ファーム自身には、そういうことは無いといわれた。つまり(株)ファームの持つ施設の売り上げだけで運営をしているということである。土地は市有地であり、ほとんどただ同然の土地代のようであるが、施設などの初期投資は、(株)ファームが約25億円、市が約15億円を投資している。

昨年の7月にオープンしてから、6月でまる一年になるが、「入場者数は約70万人になるだろう。事業計画では35万人としていたが、おそらく40万人程度に落ち着くのでは」と言われた。

こここの全体の事業の仕組みを紹介すると、市有地上に長崎市が設置した施設（農業関連施設の補助金活用、収益性は低い）地区とこここの運営を受託している第3セクターの(株)長崎ファミリーリゾートがあり、(株)ファームの設置・運営する施設（収益が見込める施設）地区の2地区で構成されている。

第3セクターである(株)長崎ファミリーリゾートは、市施設の運営を受託しているが、実際にはノウハウを持

つ(株)ファームに任せられている。したがって(株)ファームは、自己所有の収益施設の売り上げと第3セクターからの施設運営委託の収入によって経営を行うという仕組みになっている。

長崎市いこいの里ーあぐりの丘	
北側部分	南側部分
遊戯施設・販売施設	農畜産加工体験施設
投資 約25億円	投資 約15億円
施設設置 (株)ファーム	施設設置 長崎市
施設運営 (株)ファーム	施設運営 長崎市
運営受託	(株)長崎ファミリーリゾート (第3セクター)
投資: 約25億円	
※長崎市による周辺基盤整備投資: 約7億円	
さらに、現在アクセス用のトンネルを建設中	
今後の総敷地面積は、全体区域220haのうちの50ha	
であり、このうちの15haが開発区域である	
業務提携	

(株)ファームの収入を想像すると、今年の入場者70万人として、そのうち家族連れは70~80%とすれば、約50万人が家族連れとなる。一家族1万円という想定(これ以上は期待するなどという会社の方針らしい)とすれば、平均3.5人/家族として、売り上げは約14億円、またその他の客20万人が1人あたり1千円として2億円、これを併せて16億円、おそらく20億円にはとどかないぐらいかなと思われる。仮に200円でも入場料を取っていれば、これに1億円以上の収入が上乗せされることになるので、入場料徴収をしたらどうかと言ったら、「無料だったものを100円でも200円でも取ることにすることと、100円を200円にすることとは、大きな違いがある。相当の勇気が必要だ」との答えであった。利用客数の相当のダウンを覚悟してでも実行した方が売上げが期待できるかどうかということである。

しかし入場料はとらず、この施設の売り上げだけで、雇用は常勤社員100人、臨時50人といわれており、市民のための準公共施設としてだけでなく、雇用創出という点からは地域にとってのメリットは大きい。

●第3セクターの仕事は

一方第3セクターである(株)長崎ファミリーリゾートは、地域のそうそうたる企業等が出資して作られた第3セクターではあるが、正社員は3人しかおらず、市から受託する仕事の大半は(株)ファームへの再委託、ある



7~8千万円を売り上げる地元農家による販売所

いは業務提携によって行なわれている。土地も施設も保有していない、投資も何もしていない第3セクターで、市が施設運営委託をする限りは倒産することもなさそうである。第3セクターが受託している維持管理の委託費は、(株)ファームが支払う税金相当分の金額(2千数百万円)を、長崎市が管理委託費用として、第3セクターに支払っており、これに加えて、市が設置している農産物販売所(株)ファームの施設地区の入り口にある賃料等の収入(年間の売り上げは7~8千万円くらいのようだが、とすれば2~3百万円程度の賃料収入はある)もあり、これらの収入によって第3セクターは運営されているが、実質的には、(株)ファームが3セクの施設運営も受託しており、この地区全体の経営を行っていることになる。

この農産物販売所は、市の設置した施設で、第3セクターが管理受託しているものである。产品を出荷・販売しているのは、地元の農家が中心になって組織された「たけのばば会」というグループであり、農協などで一括して出荷する产品とは違い、ここに持ってくる時間は自由なため、高齢者の人たちも喜んで出荷しているということであった。

●季節変動への対応は地元重視のイベントで

日経ビジネスにも書いてあったが、(株)ファームでは、全国にある施設間で、入場者の季節変動に合わせて、従業員を配置しているそうである。あぐりの丘の場合、長崎という地域の人は、気温が15℃を越えない外に出でこないという土地柄であり、天候を当てにせず、リピーターを確保するため、様々なイベントが行われている。

子供の音楽発表会や幼稚園のお遊戯会など、地域の人たちが参加しやすいイベントを行って、子供にくっ



この方角で東シナ海に沈む夕日が見える

ついてくる親、祖父母、親戚などの動員も仕掛けている。さらに、地元の農家などの高齢者も、園芸の管理作業などで活用されており、徹底した地元重視の営業が行われている。

それだけではなく全国にある㈱ファームの営業活動網を生かして、将来の利用客にもなる可能性がある修学旅行生等の動員も行なわれており、すぐそばにある宿泊施設「式見ハイツ（勤労総合福祉センター）」との提携で、2泊目の夕食に、バーベキュー食べ放題を行うなど、将来の利用客への営業活動も行っていること。

この施設を運営する㈱ファームは、ここを運営するために、販売、飲食、管理などの経験を持つ人たちを地元採用によって立ち上げられた新会社である。しかし、㈱ファームとしての基本的なノウハウを得るために、開業前の一年間は、全国の別の施設での研修も行われているが、本当のノウハウは仕事の中で蓄積していくものであり、こういうイベントの展開などでの経験が必要なようである。

●今後の課題

無料であることによって、近隣の人だけでなく市内全域をリピーターとして呼びこめるという「安近短」の最たるものであるこういう施設でも、利用客の確保のための様々な仕掛けが行われている。

しかし、最終的には40万人程度の利用客で経営できる体制とすることが課題で、今の従業員を6~7割程度まで縮小していく必要があると言われたが、ファームの場合には、全国の施設間での労働力移動ができ、この辺は柔軟な対応が可能になっているようである。

現在の施設整備地区は、全体面積の1/3程度であり、今後も新たな整備を行うべく検討がされているそうだ

が、せっかくここまで地元重視で展開してきたコンセプトは損なわれないような展開を期待したい。

最後に、話しかけてくれた支配人は「一年目で採算がとれなかったら、私は首ですよ。企業はそういうものでしょう。」と言われた。

地域の顔なじみの人と会うのが楽しい！

福岡県杷木町のミニディの取り組み

山田 龍雄

福岡市近郊のある町で介護保険事業計画をお手伝いをしている中で、地域にマンパワーがなく、毎日通うのにも時間がかかるような過疎地や離島などの在宅介護やデイサービスをどうしていくかが問題となっていた。この時に何か良い知恵がないのかと検討していた時に、福岡県は杷木町で取り組まれている「ミニ・ディサービス事業」の話を聞き、早速、町の担当者と一緒に取材に行ってみた。

●きっかけは家に閉じこもりがちな独居高齢者への対応から

福岡県杷木町は朝倉郡の東側に位置し、大分県日田市に接しており、富有柿の生産地、原鶴温泉の地として有名である。ちなみに本町の人口は約9千人、高齢化率22%で町平均としては著しく高齢化率が高い訳ではないが、山間部などの集落では当然高齢化率も平均以上のところがあるものと思われる。

この町には、現在、志波（しわ）地区と大山地区の2箇所でミニディを実施している。設立当初からこの事業にかかわってこられた社会福祉法人「日迎（ひむかえ）の園」のケースワーカーの担当者に、その設立の



杷木町位置図

きっかけと経緯を尋ねてみた。半年という短い期間で地元関係者をまとめ、実施に至った経緯は概ね次のとおりである。

- 地域の民生委員や区長さんが、地域内で増える独居高齢者が家に閉じこもりがちとなることを心配し、「日迎の園」に相談したところ、とりあえずはミニデイ発足に向けての研究会活動を行った。
- 地域選出の議員、民生委員、介護支援センターの職員が中心となって、半年を目途に設置する発起人会を発足。(平成8年5月)
- 発起人会長が5月から12月まで高齢者調整サービス会議や構成委員会に協力を願うと同時に事業計画書の作成を行う。
- 平成9年1月に準備委員会を開催し、ミニデイ志波の設立が全員一致で決まる。
- 委員会以降に具体的な実施要項や運営方針を決めるための運営委員会を行う。
- 平成9年4月より事業開始

●“ちょいボラ（ちょっとボランティア活動）”精神をつくる仕掛けをもとに、せきまつらが認定するデイサービス施設は重介護型（A型）～痴呆性老人向け型（E型）まで5種類があり、ミニデイといわれるD型では、国の補助対象が一日の利用者が8名以上で、18名未満の場合は県の補助事業の対象となる。しかし、杷木町で行われているミニデイは、これらの認定施設とは別に、問題意識を持った地域住民が専門家の協力を得て運営し、後に町の助成金が出る施設となった。ちなみに町の助成費は当初400千円（2デイサービス合わせて）、今年度は600千円である。体制としては、福祉法人「日迎の園」の職員1名を必ず地域に派遣し、そのお手伝いとして地域のボランティアの方々が2名割り当てられている。（昨年度、ボランティアが実際に来た頻度は平均0.7人／日程度で、2名を割り当てていると1人で来ている日が多いとのこと）ボランティアを割り当てているという表現はボランティアという精神からすると矛盾するようでもあるが、なんとなく都合の良い日に来てくださいということではなく、なかなか来てももらえないし、体制としても機能しないということがあり、あえて日程を割り当て“ちょいボラ”精神を發揮してもらっているようだ。

仕事としては、右表に示すように昼食の準備と後か

たづけ以外はそれほど忙しい業務ではなく、職員の方1人でもなんとかやれるそうであるが、発足当初からミニデイは福祉法人の施設サービスではなく、地域との一体になった活動であり、地域との結びつきを創っていくという主旨のもと、できるだけ多くの“ちょいボラ”志願の人々に呼びかけているようだ。

●楽しみは顔見知りの人との食事とおしゃべり

「日迎の園」の担当者の話しを聞いたあと、実際に志波地区のミニデイ「富有の里」を視察にいった。

この施設は森林組合所有の地区集会所であり、2,000円／回（週2回のサービス）の賃貸契約で利用している。

当日は5名のお年寄りの方が集まり、折り込みチラシを利用した鶴の紙細工をしており、午前中の料理教室で調理された「じゃがいも饅頭」をご馳走になりながらお話をさせていただいた。あるおばあちゃんは「週2日であるが、毎週この日の来るのが楽しみです。食事も美味しいし、みんなといろいろ話をするのがなによりの楽しみ……」とのこと。

また、食事はバイキング形式であり、おかずが12種類で一人350円のこと、値段の割にはかなりバラエティに富んでいる。

●地域の人々の支えがあれば住み慣れた地域でできるだけ過ごせるのではないか。

効率のみを考えると、町の福祉施設や社会福祉法人が経営している中心施設に集めてサービスした方が良いのかもしれないが、このミニデイの良さは、お年寄りからすれば、車の送迎があったとしても遠くまで行かなくてよく、昔なじみの人々と気楽に話すことができる。

ミニデイ「富有の里」の一日のスケジュール

時 刻	業 務 内 容
8:30～ 8:50	移動
8:50～ 9:00	送迎準備 食事準備 お茶 清掃準備 配車
9:00～10:00	清掃 会計
10:00～11:30	お茶 レクリエーション リハビリ訓練 電気療法 食事準備 食事サービス 後片づけ
11:30～12:30	休憩
12:30～13:40	生きがい対策（カラオケ教室、民謡教室）
13:40～15:00	休憩 排泄介助
15:00～15:30	お茶 移動介助
15:30～16:30	送迎 休憩 清掃 後片づけ



地区集会所を利用したミニディー...きがあげられる。また、とかくひとり住まいとなつたときに家に閉じこもりがちになるお年寄りを外に出すことによって、心身ともに元気づけ、ボケ防止になっているのかもしれない。地域の人々にとっては、単に施設職員にまかせるのではなく、ボランティアヘルパーとしてお年寄りのお世話をすることによって地域としての愛着や交流も芽生えてくるのではないだろうか。

「よかネット」への御意見、近況などを皆様に寄せていただきました

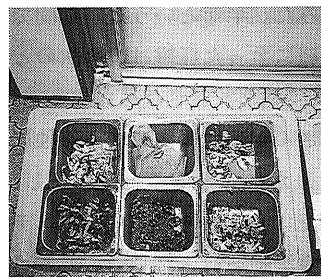
NO.39号に同封していたハガキで、本誌に対する様々な御意見、読者の皆様の近況が寄せられました。ここでは、その一部を紹介いたします。

■ NO.39巻頭の第3セクター論、本当にそうだとうなずきつつ読みました。「サービスの本質的良さ」「うまくいっている事例に学ぶ」「肝心なのは人（経営の核）と地域」などは今後とも経営の基本として生きる主張だと考えます。（東京 御船哲さん）

■ 「第3セクター経営の原点」などいつも興味をもって読ませていただくレポートが多く、大変参考になります。（山口 河野哲男さん）

■ 毎号面白く、楽しみに拝読しています。3月号の「もはやモノ売り商売では中心市街地の活性化はできない」では、現状の分析などにうなづきました。（宮崎 黒木勝実さん）

■ いよいよ快調の「よかネット」はますます厚くなつて（NO.39は22頁！）充実ですね。私達、支援ネットも「きんもくせい」を復刊して震災復興から普通のまちづくりへの努力を続けます。（兵庫 小林郁雄）



地区集会所で提供している、お年寄りを喜ばせるおもてなし食事。おもてなし食事は、地域の資源を活用して、地域に貢献する持ち運びができるバイキングスタイルのおかずの入れ物

跡の、日々の活動の糧となる食事のあり方へ生えてくるのではないだろうか。

平成7年のNIRA（総合開発機構）の助成研究で「高齢者はなぜふるさとを離れたのか」のテーマで事例研究をした結果、ひとり住まいとなった高齢者は大都会の息子の元へ呼ばれて行ってみたけれど、肉体的、精神的バリアーのため田舎に舞い戻ってくるケースが結構あるとの話しを聞いた。この事業はお年寄りができるだけ住み慣れた土地で永く生活していくために地域が支えていく手段として有効であろうと思う。

■ 楽しく読ませてもらっています。近ければ料理持参でパーティーにも駆けつけたいところです。昨年度、兵庫県八鹿町で「ふるさと交流居住計画」の仕事をやりました。これまで都会の再開発ばかりやっていたのですが、地方、農村を調査して今の魅力と豊かなストックに改めて感心しました。都会は田舎によって救われる。これまで知らずにそうだったのですが、もっとプラス方向で田舎をとらえる必要があります。（奈良 宮本孝二郎さん）

■ 新鮮な興味深い情報を、楽しく読んでおります。趣味にも仕事の種としても役立て、仕事の報告書も糸乗さんの語り口で書きたいものと心掛けています。（長浜のこと……ある再開発で設立を仕掛けいますが、不況だからこそ第3セクターの役割があるのに、財政難だけで反対論優位になるのが困ります。）

長浜のこと……北国街道が一人勝ちの感じに見え、昔のアーケード街の辺りがどうなのか気になります。スーパー・ブランドシティのこと……先日、小樽のマイカルでもそれに会って、こんな街はずれで今頃何でとびっくり。博多でもお店が続くことを祈るのみ。

ネット流行にて……まちなみ・まちづくり人たちを結ぶ“まちまちネット”で、電子と紙と飲み会による情報交換や、町並み勝手にほめほめ運動をやっていま

す。

(東京 伊達美穂さん)

■よかネットパーティーでは楽しませていただきました。様々な立場、年齢の方々が参加されていて、またとても自由な雰囲気で「ああええイベントやな」と感じました。

(福岡 志賀壮史さん)

■地域経営のことやデータのユニークな見方、地域づくりの事例などが、たくさん載っている「よかネット」、毎回楽しみに読ませていただいています。当方でも今年からニュースレターの発刊の準備を進めています。また楽しみにしていて下さい。(滋賀 秦憲志さん)

■糸乗さんが栽培されたソバを近所の人達にソバキリにして振る舞って、大変喜ばれています。今度、九州アルパックでソバ打ちイベントがあれば参加したいものと思います。(神奈川 柳沢厚さん)

■平成3年にできたBV振興財団で、VBコンペを担当しております。全国公募のイベントですので九州の企業も参加されていますが、単なるコンペではなく補助金や融資を受けられたり、VB関連展示会の出展に際して、コマ料を補助するなどメリットの多い事業です。新聞でもPRいたします。(大阪 深堀謙二さん)

■面白い話題満載の「よかネット」いつも送っていましたありがとうございます。先日、北京へ行ったときのこと。首都だけに片側3車線の広い道路でも渋滞や交通事故を目撃。それだけでなく、ロバの荷車3台が連なって走っているのを見て、ああこれが中国なんだと納得した次第です。(福岡 今村昭夫さん)

■米国へ久しぶりに出張しました。あちこちで工事中にぶつかったこと、事業の成否よりもビジネスプランが既に大きな価値を持つこと等、彼此の勢いの差を痛感しました。

(東京 佐藤正憲さん)

■創業100周年の記念事業を概ね終了しましたが、今度は創立50周年を控えた小城羊羹協同組合理事長に選出されました。羊羹文化も奥行きが深く、今後はさらなる研鑽を積みたいと念じておるところです。

(佐賀 村岡安廣さん)

■やっとNPO法人になりました。今日、法務局より“写”が頂けました。あと税務署他の官庁への届が今からです。これで一人前、普通の組織なのでしょう(小さいながらも)。「よかネット」からはいろいろ学ぶことがあります。今回号「第3セクター経営の原点～ボロは着てもココロは錦」はマネジメントの原点、ウリを明確にということがよく分かりました。NPOも今か

ら本物経営を身につけてないといけないと思っていました。

(福岡 石井和枝さん)

■ボランティア・グループ(在宅福祉)“どんTAC”的代表としてサービス活動やグループの運営をしていますが、仲間として受け下さる方があればよろしくお願いします。

ボランティアの内容……家事の援助のサービス活動、高齢者疑似体験の実施、中・高・大学生のボランティアの支援等。

援助願いたいこと……グループ運営の一部またはサービスの提供。

(福岡 松本隆幸さん)

■我が家で月に2回お茶会のまねごとを楽しんでおりますが、4月の「釣釜」の席で「あじ」と「たい」の話が出て2年前の「よかネット28号」をお見せすると、一同、唐津の焼き物に料理を盛って、一献の席にしたいと熱望、是非訪ねたい。

(大阪 渡辺恒夫さん)

■楽しみに読んでおります。筆者を存じ上げている時もあれば、存じ上げない場合もあって、なかなか私にとって興味ある「よかネット」です。八女市のお茶の老舗「このみ園」の改装を終えたところです。「建築と町づくり」という会報誌で特集「九州は本当に元気か」のところに「3年目を迎えたキャナルシティ」を寄稿しました。

(福岡 田中瞳さん)

■ていねいな作り方で感心しております。また、時宜に叶った特集テーマなど、大いに参考になります。今後とも読みたいものです。

(東京 佐藤隆雄さん)

■「よかネット」楽しみにしています。パーティーのご案内も頂きますが、残念ながらまだ出席できません。ゴジカラ村の雑木林は緑一杯、初夏一色です。お立ち寄り下さい。

(愛知 吉田一平さん)

■新鮮な切り口の情報発信をいただき、ホッとする思いで読ませていただいています。個人的には4月から産能大学の夜間大学院で経営学を学び、異文化の狭間で頭がめちゃめちゃになっています。

(東京 服部万里子さん)

■「よかネット」を毎号楽しみにしており、関係部署にも回覧しております。何の手助けも出来ないのが残念ですが、今後ともご健闘を祈ります。

(神奈川県 田村誠さん)

■いつも興味深く拝読させていただいています。福岡を離れて四半世紀。九州が時事刻々と変化する様子が伝わります。今後とも目線を低く庶民の目からの記事

を期待します。 (鹿児島 古賀和憲さん)

■最近、身にしみて感じることは人がやさしいな！と思うことです。「やさしさ」の切り口で、この体制は「やさしいか、否か」。この事は人に「やさしいか否か」全てが見えてくる思いです。「やさしさ」の視点で彫刻造形を造っています。 (大阪 田村務さん)

■平成10年度決算で農産物直売所「鳴神の庄」の売上げが、設立以来はじめて2億6千万円を突破しました。 (佐賀 岡本光さん)

■天保9年築の土蔵を自宅をギャラリー「房屋」としてオープン。しかしPR不足、準備不足で閑古鳥が鳴いて開店休業の状態に。せめて土、日、祭日くらいはオープンしたいといろいろ思案中。使い方、運営の仕方についてアドバイス募集中。 (福岡 今里亨さん)

■つい先日、昔の納屋を解体し社屋（アトリエ）を新築しました。四月から上記のような体制（畠園芸社として生産振興部、促進販売部、デザイン部）でのんびりとやっています。農業と花屋さんを合体させた複合体制です。近くへ来られましたら声をかけて下さい。

(福岡 畑吉明・てるみ御夫妻)

■仕事で沖縄の那覇市に出張しているが、まちづくりの対象地区は、国際通りから入った公設市場付近、ダウンタウンのど真ん中。委員会がはねると、委員長以下5、6人で決まって第1公設市場の2階食堂のテーブルを囲む。隅っここの喜楽亭（？）が味、盛り共に良く、一人2千円出せばゴーヤチャンプルー、グルクン唐揚げ、ジーマミー豆腐など7、8品が次々とテーブルに出てくる。3千円はずめば満漢全席状態。おいしさと安さに小躍りすること請け合い。沖縄来訪の折はお立ち寄りをお薦めしたい。 (福岡 大渡剛弘さん)

■福祉といえば、今回の地方選において大分市に全盲の市会議員さんが誕生しました。当地では大変話題となりました。「よかネット」いつも有難うございます。いつも楽しく読ませて頂いています。

(大分 野村征三さん)

■今全盛の郊外型大規模ショッピングセンターは、自家用車抜きには成立しません。運転免許を持たない少數派の私は、公共交通機関の来るべき「よかネット」をあれこれ想像しています。 (大分 小田博道さん)

上記以外にもたくさんお寄せいただいております。次号にも引き続き掲載いたします。

よかネット編集部よりお贈りするお詫び

うまいもの、美味しい話、大集合！

第7回よかネットパーティー

井上 順之

岩田屋Z-SIDE や三越、ソラリアステージといったビルに囲まれた“天神のオアシス”警固神社にて、今年で7回目となる“よかネットパーティー”を5月22日（土）を開催しました。

私は今年入社したので、初めての参加でしたが、たくさんの方々に会えるのを楽しみにこの日を待っていました。皆様に様々な料理や飲み物、そして面白い話などを持参していただき、このパーティーが人と人のネットワークづくりのきっかけになればいいなと思っていました。

●料理はつくりたてが一番？

パーティ開始直前、会場の設営と同時に様々な料理が至る所で作られていました（昨年まではあまり見られなかった光景だということです）。

まず、縁側では当事務所の糸乘が自分で育てた蕎麦粉を使って蕎麦うちをしておりました。味の方もなかなか好評だったようで、私が気がついたときにはもうなくなっていました。

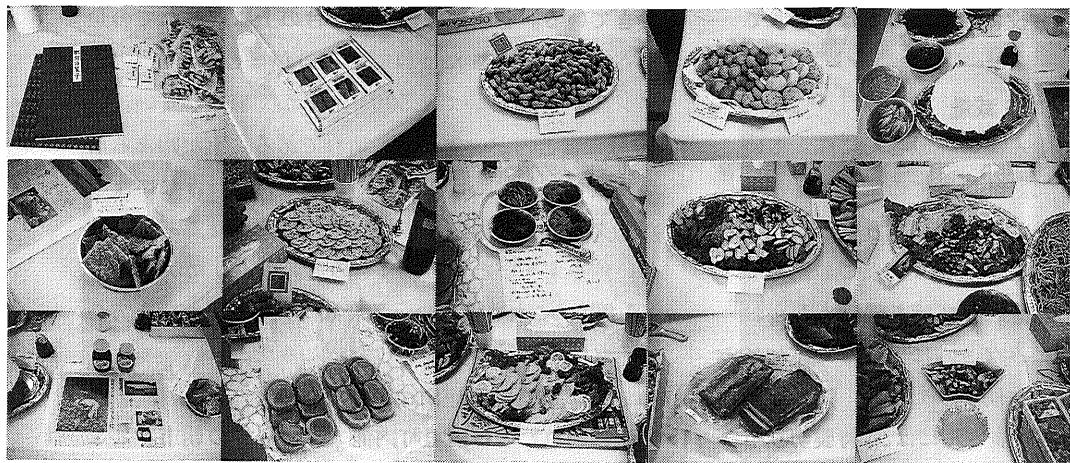
また、外ではここ2年ほど燻製を担当した山田・小田コンビが手づくりの燻製器を囲んでじっと睨んでいました。毎年好評だったようですが、今年は仕込みが上手くいかなかったせいか、とても塩辛く感じたのは私だけではないと思います。

すごいのは、建設会社勤務の宮脇淳さんで、持ち寄り型パーティーにふさわしく、食べ物だけではなく、コ

ンロ、だし汁、お玉、コップなど全てをママチャリに



至る所で会話を弾む



上段左より「切り羊羹、とら焼き、羊羹資料館資料“肥前の菓子”」、「柿の葉ずし」、「大村特産ゆでピーナツ」、「モチモチパンと手作りクッキー」、「ざる豆腐」

中段左より「奥様手作りのカリバリクッキー」、「フランスで買ったブルーチーズ」、「高山朝市のお漬物」、「塩がきいていた薰製」、「阿蘇白水村の薰製」

下段左より「佐賀上場地域のわさび漬け」、「蜂楽饅頭」、「筑波産の筑波ハム」、「水ナス」、「茹でアワビ」この他たくさんのお食べ物、飲み物が登場しました。

詰め込み1時間前にさっそうと現れ、縁側でしこみに入つておられました。出来上がった特製エスニックスープはあつと言つて間になくなり大人気、「さすが、現場が長いとなんでも現地で完成させる根性が生まれるんだ。立派だ。」などといふ誉め言葉も飛んでいました。

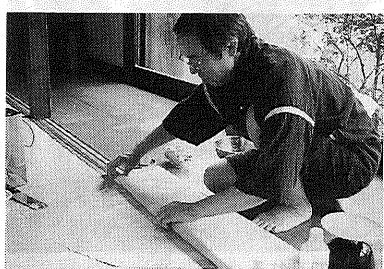
会場角に設けたコーナーでは持ち寄られたものを切ったり、盛りつけたりするお手伝いをしていただきましたが、特に谷口みゆきさん、神崎依子さんには、蕎麦打ちから受付、皿配りなどあらゆるところで“助っ人”として参加していただいて、人数の少ない当事務所員全員、足を向けては眠れない思いです。

●今年もたくさんの料理を囲んで

パーティー開始予定時刻が近づくにつれ、段々と参加者が集まり、開始時刻には毎年恒例となった“どぶろく”で乾杯を致しました。この時点で約20名ぐらいだったので、すごく不安になりました。しかし、時間



パーティーの記念に！
“有田焼のお皿”



自称
“ソバうち名人”

が経つにつれ、どんどんと参加者が増え、受付もあまりスムーズにいかなくなりました。そして気がつけば、ピーク時には約80名が会場に入っていました。入れ替わり立ち替わりで最終的には延べ100人弱の方々の参加がみられました。

料理の方はといいますと、最初は寂しかったテーブルの上も、徐々に食べ物やお酒などが所狭しと埋め尽くしていました。このパーティの第1回目(1993.6.4)の時には、全国のうまいもの情報を皆さんに寄せていただき、我が社で取り寄せたりしていましたが、数年前から手作りのもの、自分で自慢したいおすすめの一品などを持ち込む方が増え、7年目の今年は皆様の個性豊かな手料理や特産品の数々で、パーティーはいっそうにぎやかになりました。ところで、印象に残った料理・酒はどれでしたか？私は受付にててこまいったので、料理もあまり食べられなかったのですが、パーティーが終わった後の他の所員の“あれはおいしかった”などの話を聞くとすごく悔しい思いをしました。次回は合間に縫ってたらふく食べようと思っております。

●“かべしんぶん”でアピール

今年のパーティーでは、小学生の時によく描いたような“かべしんぶん”なるものをつくりました。所員の中には小学生の時を思い出し、大はしゃぎで描いている人もいました。その内容といいますと、燻製やどぶろくの作り方、椎葉の旅日記などです。写真や絵でアピールすることによって、口だけでは伝えにくいものを表現でき、参加者の多くの方がこのかべしんぶんの前に立ち止まり、興味深くご覧になられていました。このかべしんぶんをきっかけに話が弾むすがたも

見られ、人の輪づくりのお役に立てたのでは思っています。

●今年も有田焼のお皿でゴミ減量

今年の取り皿は有田のしん窯の梶原さんに作っていただきました。使い捨ての紙皿ではどうしてもゴミの量が多くなるため、昨年より行っていることですが、人の輪を表す“〇”を描かれたこの正方形のお皿は、パーティーの記念として持ち帰ってもらおうというものです、参加者のみなさんには喜んでいただけ、我々もゴミが減らせて大助かりです。

また、村岡総本舗の村岡安廣さんには、「特製切り羊羹」と「とら焼き（“どら焼き”ではありません）」、羊羹の歴史資料などをいただき、皆さんへのよいおみやげとなりました。

さて、皆様の“よかネットパーティーの感想や文句”を是非お聞かせください。パーティでお会いできなかった方も“こうだったら行くんだけどな”といったご要望でも構いません。

日曜の朝は朝市街道でかけよう

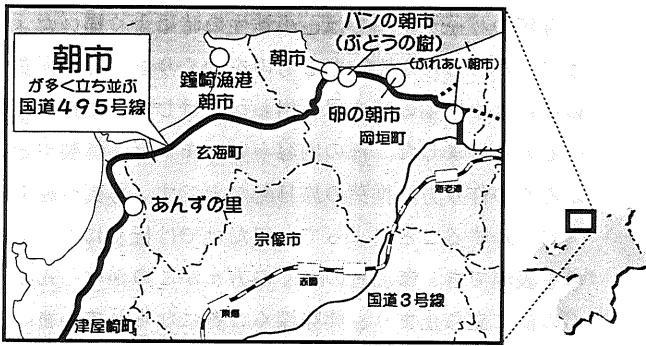
津屋崎～玄海～岡垣ルート（国道495号）

小田 好一

今年度から北九州市の西に位置する海と山に囲まれた岡垣町のまちづくり計画をお手伝いすることになった。この町やその周辺のことをよく知ろうと岡垣町内やその周辺で行われている朝市に出かけた。

●市が始まってから10分が勝負

はじめに訪れたのは岡垣町の東、玄海町にある鐘崎漁港。ここでは毎週日曜日の朝6:30から、とれたての魚が並ぶ朝市がある。私達が到着したのはちょうど6:30くらいだったが、すでに200人程の人だかりが



朝市の位置図

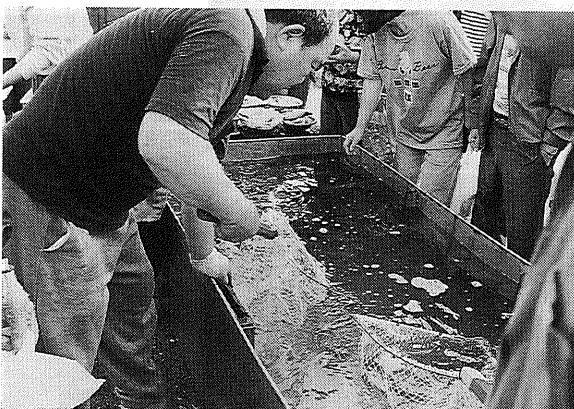
できている。各店舗一畳程度の台の上に取れたての魚を並べている。まだねているのがほとんどだった。アジは10匹くらいで￥500。とにかく値段が安い。約10分でほとんどの店が売り切れである。市が始まるとから欲しいものに目をつけておかないといけないようだ。タイは金属製の大きないけすに泳がせてある。欲しい魚をすくいとるというものだ。小ぶりだが1kgで￥1,000。これまた安い。魚介類は大好物だが捌き方を知らない私は結局買えずじまいだった。

●ビワが豊富な岡垣町の朝市

次に訪れたのは岡垣町内浦（うつら）の朝市。ここは漬物や練り物もあるが野菜や果物がウリものようである。10年前にできたこの朝市はトタン屋根の下で生産者が思い思いの値段を付け販売している。朝7時頃に到着したとき、近くの駐車場（30～40台）はほぼ満車であった。お客様は70人ほどだった。鐘崎漁港の朝市に比べるとすいぶんのんびりした雰囲気で、ゆっくり買い物ができる。6月は町の特産品のビワの季節であり、店頭に見られた。値段は粒が大きいほど高くなり、相場は1パック￥300～400程度。粒が大きいと実がたくさんあるのかと思っていたらそうではないようだ。種も大きいのである。町内では高級ビワを生産しており、地名を採って「高倉びわ」のブランドで関東地方にも出荷している。ちなみに、町ではビワを使った新しい特産品をつくろうという動きがあり、ビワの葉茶、ビワ酒、ビワの葉羊羹などビワを使ったものがつくられている。珍しいものが好きな人は一度お試しあれ。ビワの葉には漢方の効果があるそうだ。

●パンも朝市！？

東に車を進めると、よかネット38号で掲載した「ぶどうの樹」がある。通ってみるとそこには平日は見か



お店の人がいいタイを選んでくれる。

朝のさわやかなひとときを過ごせる朝市



さわやかなひとときを過ごせる朝市。並んでいたのが、なかなか見かけない「パンの朝市」という看板が掛かっていた。気になり思わず寄ってみた。そこではくつろぐことのできる円テーブルとイスが置かれて、これを囲むようにパン屋さん、コーヒー、ワイン、ホットドッグ販売のコナミヤがある。朝8:00ごろ行ったが、木々と小鳥の声とたくさんの花に囲まれて非常にすがすがしい。パン屋さんに入ると、よい匂いがする。ホットドッグは自家製のソーセージを使用しており、パリッとした食感もよく、なかなか美味しい。焼きたてのパンのほかオリジナルワインやこだわりコーヒーなどもいただくことができる。くつろいでいるお客様は服装からみて地元の家族連れやご年輩の夫婦がほとんどで、まるで散歩感覚だ。店の人と親しい人が多く、常連さんが多いようだ。

●タマゴも朝市！？さらに東に車を進めると養鶏場の方が出している朝市もあった。こここの目玉は朝取れたての新鮮な卵である。有精卵も売られていて一箱20個ほどで￥700で売られている。ここでは卵の自動販売機が常設され、平日でも卵が購入できる。双子の卵、有精卵など変わったものも売っている。

●農産物の朝市に強敵あらわる

ついでにとばかりにもう1カ所、岡垣町の東、津屋崎町にある農産物直売所「あんずの里」に寄った。朝9:00オープンだが私達が到着したのは9:20頃。ここは駐車場に車整理の警備員もいて、すでに満車である。周辺道路にも路上駐車の車がたくさんあった。店の中は人でごった返し、4台ほどのレジにはどれも3~40人の行列になっている。どのお客様もかごにたくさんの野菜を買っており、ざっと見て、品物選びが5分、レジ並びが20分という感じである。ここは各生産者、出品する

パンの朝市



卵の朝市

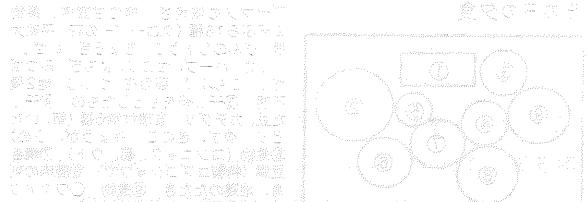
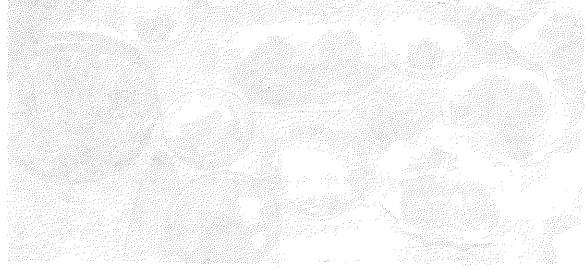


作物の管理をする仕組みになっているそうで、お店に並んでいる品物は色もきれいで、大きさも揃っている。袋詰めされ、生産者の名前も入っていた。先に見て回った2カ所の農作物の朝市とは値段はあまり変わらないがこちらの品質は保証されている。

●朝市街道 国道495号線

この日見て回った朝市は4カ所だが、実はここにくるまでに小さな朝市をいくつも見かけた。国道495号線はまさに朝市街道である。実に様々な朝市があった。漁港に立地した鮮魚朝市、「おばあちゃんの小遣い稼ぎ」のよう農産物の品質は様々だが生産者とお客様のコミュニケーションがあるほのぼのとした朝市、生産者との直接のコミュニケーションはないが徹底した品質管理がなされた「商売」としての朝市などがあった。また、パンの朝市、卵の朝市のように何か目玉があると朝市として成り立つようである。

新鮮な魚を見て「魚の捌き方」を、野菜を見て「まともな料理」を覚えようと朝市のハシゴだった。

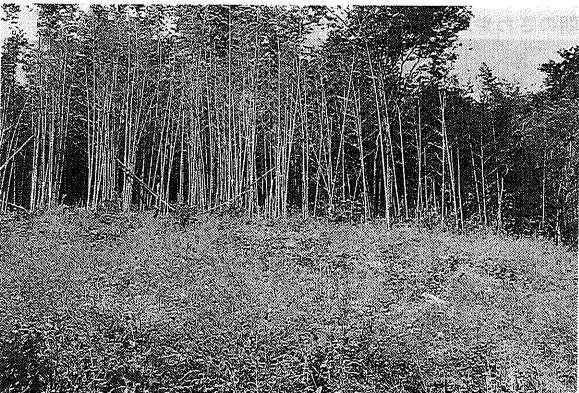


椎葉秀行さん・クニ子さんに会うのが目的の観光

澤谷 真紀子

私が入社する前に、遠野と椎葉について書かれた記事があります（よかネットNO12）。柳田国男の遠野物語の「とおの」、焼畑農業、平家の落人伝説、椎葉秀行さん・クニ子さんのいる「しいば」、どちらも魅力的だと思っていた上、入社後は、「椎葉に行ってクニ子さんに会った」、「すごい人や。その辺の雑草が夕食に出てくる」、「道端の草の名前や食べ方を歩きながら教えてくれるけど、覚えられる量じゃない」など、ことある毎に自慢する糸乗に感化され、山菜の時期、九州の秘境と呼ばれる椎葉村へと行ってきました。

「椎葉村で焼き畑農業を営む椎葉秀行さん・クニ子さんに会いに行きませんか」という呼びかけに集まつたのは計八人、それだけのためによく集まつたものだと感心しました。椎葉さんご夫婦、特にクニ子さんが語って本になった「おばあさんの植物図鑑（葦書房）」は福岡の出版社では異例の大ベストセラー（現在第5刷が出ている）となっており、知る人ぞ知るご夫婦です。本の中に登場する植物は551種類、そのひとつひとつについて、食べ方や遊び方、いつ知った植物なのか、焼き畑の休憩の時に食べるからその時期には味噌を持って行くとか、干して売るとどの位で売れるとか、何日もさらすと毒が抜けるとか、生活に密着した植物の生かし方が語られています。



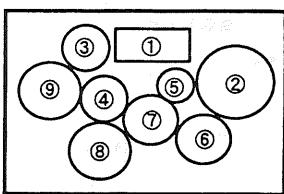
年に1haを焼き、4年間畑として使い15年くらいで山に還す。今は菜種が植えられている（雑草が生えているように見える）。ジャガイモの近くに日除けのために菜種を植えるなど知恵が生かされている。

この日、午前8時に車で出発し、民宿（椎葉さんご夫婦が経営）に着いたのが午後4時（途中、色々と寄り道しましたが）、「こんなところよく道路整備するなあ」と思うほど山奥の奥でした。ちなみに椎葉村の道路改良率は全国最下位です。夕食が圧巻です（写真・図参照）。全てその辺でとれたもの（育てているものもありますが…）で、焼き豆腐の食べ方などはクニ子さんに手取り足取りで指導を受け、写真の他にらっきょうの漬け物や、葉わさび、珍しいシロメ（小さい筍）などが配られ、これでもか、これでもかというほどの気持ちよいもてなしを受けました。

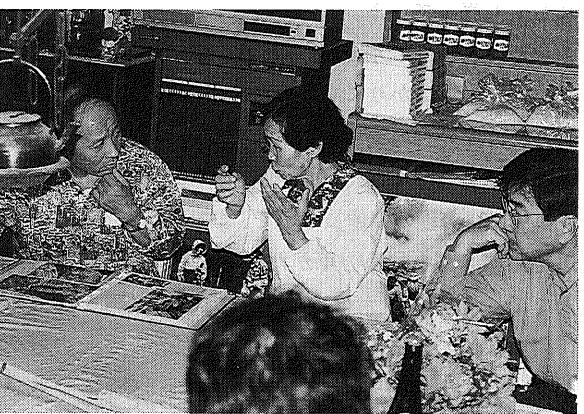
観光に一番必要なのは、他に負けない“もてなし”です。我々は椎葉秀行・クニ子さんに有り余るほどの“もてなし”を受けました。ここには山の植物を生かせる人（クニ子さん）がいて、そういう人しか作れないものを食べさせてもらい、その人の豊かな知恵を学ぶことができ、色々な人にその人に会ったことを自慢できるといった、観光の見本のようなことが詰まっています。



その日の夕食



- ①ヤマメの塩焼き、梅の甘露煮、果物
- ②天ぷら16種（クローバーの花、平家大根、けんのじょうこ、ちよろぎ、山ぜり、ハッカ、ハーブ、セロリ、よもぎ、みづばせり、こんふり、藤の花、つつじ、他2種不明）
- ③干し荀をもどしたものの
- ④干した豆、カチクリ
- ⑤漬け物6種（荀、いたどり、ゆず、きのこ、みょうが、うめ）
- ⑥煮物（コンニャク、荀、ウド）
- ⑦焼き豆腐（特製ユズゴショウで）
- ⑧鹿内の刺身地鶏のたたき
- ⑨煮物（ワクドウ汁（蕪麦団子の入った汁））



夜はクニ子さんによる植物講座

す。

我々の世代まではクニ子さんから直接に話を聞き感動を覚えますが、次の世代は我々から「植物の生かし方を知ってる人がいた」としか聞けず知恵は受け継がれないかもしれません。我々の世代が次の世代に受け継ぐ知恵は、我々が引き継いだものの半分にも満たないとしても、地域の魅力 자체が無くなってしまうことになるでしょう。人や地に根ざしたコト（文化や自然）を次の世代に受け継げるよう大切にすることは、地域づくりにとって大切なことなのだろうと改めて感じた椎葉村でした。

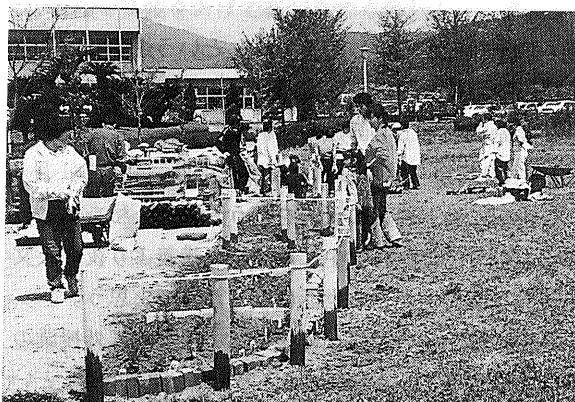
盲学校でハーブ園づくり

伊藤 聰

目の不自由な人でも花や植物は楽しめるだろうか、そんな花壇はつくれないだろうかということで、福岡グラウンドワークトラスト研究会ではハーブの花壇づくりを行った。ハーブならば香りを楽しめるし、それによって自分の位置を認識することもできる。これは、一昨年イギリスで障害者施設のハーブ園を見てヒントを得たものである。

福岡盲学校（筑紫野市）の広場に4月24日（土）、研究会のメンバーのほか、盲学校の先生、生徒、地元でハーブ教室をしているグループなど市民の方々が集まつた。

草のはえた広場の一角を掘り返すことから始まって、ブロックとレンガで花壇の縁を作った。ブロックとレンガは、去年海の中道に作った直径70mのひまわり花壇の撤去後の使い回し、もとい、有効利用である。ハーブの苗は（財）福岡市緑のまちづくり協会からの寄附、



これがである。盲学校の一角に作ったハーブ園

肥料は宗像市からの寄附を頂いた。

ハーブの種類は、ローズマリー、レモングラス、ラベンダー、ペパーミント、アップルミント、セイジ、タイムなど。ハーブなんて雑草だからほっていても育つ、と言う人もあったが、ハーブにも生育環境に好みはあるようで、日当たりの良いところがいいもの、水はけが悪くても大丈夫なものなど、条件に合わせて植えていった。苗を植える作業は比較的簡単で、労力の大半は何もないところに花壇を作ることに費やされた。

花壇の周りには木の杭を打ってロープを張り、ロープを伝ていけば花壇が一回りできるようにした。杭には何が植えてあるかを書いた点字のプレートをつける予定である。杭はカラーで着色し、弱視の人でも自分がどこにいるか確認しやすくなる予定だが、この作業は次回に持ち越しとなった。また、立ったままでも、あるいは車椅子でも作業ができる高さの花壇をつくる構想もあったが、これも持ち越しとなってしまった。

花壇の手入れは、基本的に盲学校の先生と生徒、それに地元のハーブ教室の方々にやってもらうことにしているが、一般の人も自由に見に来ることができる。福岡盲学校の校長先生も地域の名所になれば、と言っておられた。ハーブが育ったら、盲学校の生徒達にハーブティーやハーブ石鹼など作ってもらって、ぜひまた楽しみたい。目が不自由な分、嗅覚などの感覚は優れている人が多いと思う。それを活かしていくならうれしいものである。

ところで、目の不自由な人の職業といえば何が浮かぶだろうか。あんま、マッサージ、鍼灸、そんなところだろう。これが今、おびやかされている。福岡市内に民間の鍼灸学校が設置されようとしているのだが、そこでは晴眼者向けの授業が行われる。視覚障害者も入れなくはないが、実際には墨字の教科書（普通の印刷の本、つまり点字でない）を使うためついていけない。鍼師、灸師などの国家試験の受験者も実は8割は晴眼者であり、視覚障害者は社会の中で更に厳しい競争にさらされようとしているのである。この鍼灸学校の申請には、厚生省も障害者保護の立場から認可を出さないでいたが、自由競争社会の中、裁判で負けて認可せざるを得なくなった。これを受けて、全国のあちこちで同様の認可申請があがるのでないかと懸念されてる。これに挑戦とは言わないまでも、少しでも視覚障害者の職域を広げることが出来ないだろうか、という

近況

希望もハーブ園づくりには込められているのである。

最後にうんちくをひとつ。あんまとマッサージの違いは何でしょう。ヒント。あんまは服の上からするが、マッサージはできない。答えは、あんまは主に揉むなどにより体の中心から末端に向かって筋肉などをほぐす。マッサージはこすることなどにより末端から中心へ向かって皮膚への刺激を与え静脈の流れを良くする。ただし、免許としては「あんま・マッサージ・指圧師」として一緒である。

中心市街地活性化について

～九Qの会・平成11年度例会から

尾崎 正利、澤谷 真紀子

九州でも中心市街地活性化基本計画（平成10年度予算）が様々な自治体、商工会議所から九州通産局などに提出されている。

社団法人市街地再開発コーディネーター協会の九州の交流組織『九Qの会』の幹事を、平成10～11年度の2箇年、当事務所の糸乗が務めており、聞くところによると九州にいる再開発プランナーにも、自治体の基本計画策定のお手伝いをしている方々が結構いるようである。そこで、昨年に続いてもう一度、商工施策の面、都市計画施策の面で体系的な研修を行い、情報交流の場にしてはどうか、ということになったそうだ。

私自身も、昨年度、中心市街地活性化に関する仕事で自治体のお手伝いをしたこともあり、研修に参加させていただくことにした。

日時は5月20日（木）。市内の様々な会議室にかけ合っても希望通りの場所が確保できなかったとかで、結局、いつも当事務所がお世話になっている警固神社の神徳殿で開かれた。この日、出席者の顔ぶれは主に福岡・佐賀県内の自治体や商工会議所の職員のほか、建築や建設、不動産鑑定などの仕事に携わる方々で占められ、延べ80数名以上あったようだ。会社の座敷宴会ばかりに机に沿って参加者が正座してズラッと並べられた。

講師は4名で、はじめに福岡県の商業・地域経済課の柴田真喜夫係長と都市計画課の吉田須美生係長のお二人が、商工政策、都市計画政策にみる諸制度、新事業の解説、地域での運用面のポイントを中心とする話をされた。

続いて、日本クリエートセンターの原忠男所長が、TMO（タウンマネジメント機関）の組織化のポイントについて実例を交えて説明された。

そして最後に当事務所の糸乗が、まちづくり事業のポイントとして、2010年までに起こりうる社会情勢とまちづくりの方向性を述べ、加えて参考事例として平成10年度にお手伝いした佐賀県有田町の中心市街地活性化基本計画の報告を行った。

全体を通して印象に残った話として以下のようなことが挙げられる。

- ・計画書の作成において地元の判断によるところが大きく、提出はされていても、既存計画を全て網羅して整理しただけというところもある。地元の「まちをどうする」という合意形成の熟度には差がみられるようだ。
- ・一斉に計画が策定されるということは、事業によってはかなり高い競争になる。国や自治体の財政は厳しく、よほど実効性があるものでないといけない。
- ・TMO組織化はまちづくりのスタートだ、というTMO万能説もみられる。しかし実際には何を目指すか（目的）、何をやるか（手段）がポイントだ。
- ・事業は基本構想が大事だ。構想だから絵まで良いということはない。お金を含めた事業フレームがないと生きた計画にならない。

なお、九Qの会では市街地再開発コーディネーターの会員以外でも、まちづくりに興味のある方の参加をお待ちしております。今年もいくつか行事を検討中ですので、案内等のご希望があれば、澤谷までお知らせ下さい。

所員近況

鈴「舞妓をあげて楽しんでくれ」という遺言

鹿児島市のザビエル公園のザビエル像の製作であり、鹿児島大学工学部建築学科造形講座の非常勤講師として30年余り勤められた柳田先生は、今年の1月6日の未明に満100歳の天寿を全うされた。私をはじめ多くの教え子は、在学中には正規の講義より夜の天文館課外授業に何かとお世話になったものと思う。

先生には小生の結婚式の挨拶で、天文館課外授業の最後の教え子という意味であろうか、「最後の男」という意味深なお言葉をいただいた。



舞妓・芸子さんの踊り

亡くなる1ヶ月前頃には鹿児島の方から、かなり弱っているとの話を聞いていたため、覚悟はできていたつもりであったが、いざ訃報を知らされた時は、もう先生とは一緒に飲めなくなったのだという言いしれぬ寂しさを覚えたものであった。

当日の通夜では故人を偲んで賑やかに語りあった。思い出話はつきることなく、私も午前2時頃までお付き合いしたのであるが、葬式には残念ながら出席することができなかった。

しかし、通夜の時に納骨式は4月の桜咲く頃に、30数年前に亡くなった奥さんのお墓がある京都の東本願寺大谷本廟で行うことを知らされていた。前置きが長くなつたが、予定どおり4月10日に納骨の儀は先生の教え子たち、先生が長年通っていた天文館某スナックの女性の方々、ザビエル像のモデルとなった機械学科の先生など関係者30数名が集まり、執り行われた。納骨が終わったあとは、東山の料亭の方で先生を偲ぶ会食が催された。

この会食は、先生が生前から言っていた『自分が死んだときは、葬式では滝廉太郎の荒城の月を歌い、あとは京都で舞妓をあげて楽しんでくれ』という遺言を果たすべき会でもあった。会食がはじまり座が賑やかになった30分頃に祇園の舞妓さんと芸子さんの2人が座敷に入ってきて接待を行い、その後、舞妓さんと芸子さん両名による踊り2曲を楽しませていただいた。このような体験をさせていただいた柳田先生に感謝するとともに、死んでも粹であった先生に感服した次第である。

確実に誰もが死を迎える訳であるが、最後にはこのような粹な遺言を残しておくのもまんざらではないと思ったものである。

(山田 龍雄)

福岡グラウンドワーク通信

福岡グラウンドワークトラスト研究会は、今年度から(財)日本グラウンドワーク協会のパイロット事業団体に認定され、協会から事業費援助も受けながら2年かけて日本型のトラスト設立を目指して活動していくことになりました。同時に、NPO法人格も2年後には取得を目指します。パイロット事業は全国で4団体で、福岡のほか、北海道十勝地域、滋賀県甲良町、高知の各グループが認定されています。

これにあわせて当研究会は、上部組織として「グラウンドワーク福岡」をつくり(メンバーは一緒)、ここがトラスト設立と法人格取得を目指し、これまでの研究会は活動の実行部隊にすることとしました。これは、お金の集め方と配分の仕方の問題でもありますが、トラストを設立するためには、数あるまちづくり活動団体のひとつと認識されるよりもそれらを取りまとめることのできる組織として、行政、企業、住民の間に立つことをアピールする方が効果的であるし、動きやすいというねらいを持っています。

また、今年8月に宮田町の宮田西中学校1年生(去年の笠松小学校生)がイギリスのGWの公園づくりなどを体験して、それを日本に戻ってから実践しようという計画を立てています。子どもたちと保護者、先生が一緒になって、旅費の足しにしようと竹炭を焼いて売っているので、賛同される方は買って下さい。小袋が三百円、中袋千円、大袋二千円で販売中です。

(伊藤 聰)

福地下足袋はいて農作業

五月晴れの美しい休日に、糸乗農園での農作業に参加してきました。収穫時のイベントは参加者も多く、盛り上がっているようですが、収穫までの草むしりや管理の地味な作業への参加者は少ないようで、一見、牧草地のような農地に、里芋やトマト、イチゴに茄子の葉が見え隠れしていました。

この日はサツマイモを植えるために、1反弱の畑に雑草が生えないようビニールを被せるマルチングという作業をやりましたが、昼食時にビールを飲み過ぎたせいか、半分も終わらないうちにぐったりとなってしまいました。それでも、My地下足袋をはいて作業に挑んだ私は、他の参加者YやOよりも足の疲れは少なかったようです。地下足袋で、土を掘る感じはとても気持ちの良いものでした。

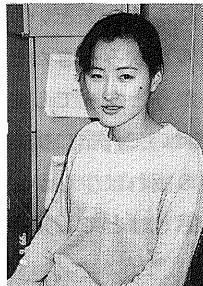
それにしても雑草の生命力はすごいもので、植物に詳しい先生によると、1gの土の中に150粒位の雑草の種があって、草むしりした際に土をかき回して、次の種が発芽しやすいようになっているそうです。また、草むしりに負けないよう、大きくならなくても短期間で種子をつけやすいように突然変異をしていくとのこと。雑草の方が人間よりはるかに学習能力があり、頭がいいんですね。

ところで、私こと、6月で退社することとなりました。9年間大変お世話になりました。今後も一住民としてまちづくりに参加していきたいと思っています。

新人紹介

私は、小さい頃からかなりのミーハーでした。小・中学生の頃は、野球選手のおっかけをして、市内のホテルまで行ったり、宿泊先のホテルに電話して選手と話をしたりしていました。

高校生の頃は、初めて「キャッツ」を観て以来、劇団四季のおっかけをしました。劇場で出待ちをしたり、学校をさぼって熊本・山口まで行ったりしていました。その結果、短大は演劇方面の学校にいきました。知らない人も多いかと思いますが、九州大谷短期大学という九州で唯一の演劇学科のある短大です。場所は、筑後市にあります。演劇学科だけあって集まってきた人は、とてもキャラクターの濃い人たちでした。今では、テレビに出ている人もいるし、自分で劇団を作った人もいます。学んだことも、ちょっと変わっていました。バレエ・狂言・声楽・年に2回の日舞・発声など、実技が多く、頭を使うのは、台詞を覚える時ぐらいでした。1年生は年1回、2年生は年2回公演があって、役者もするし、裏方の仕事も自分たちでやりました。私たちの学年は、男子生徒がいなかったので、男役も女子がやりました。2年になってからは、女役を希望しました



7月から新しく所員になります。みなさん、どうぞよろしくお願いします。

が、いつも男役でした。なぜ?という気持ちです。公演前は、夜10:00すぎまで稽古をしていましたが、不思議と不満は感じませんでした。大変だった分、終わった後は、安心感、解放感、満足感、そして感動がありました。

こう書くと、私を、とても情熱家だと、勘違いする人がいるかと思いますが、かなり勘違いです。今は、舞台は、やるより観るほうがいいという月並みの意見の持ち主です。最近では、福岡にシティ劇場や博多座などができる、舞台を観る機会が増えてうれしく思います。舞台を観て、忘れていたものを思い出せば、きっとまた熱中できるものが見つかるような気がします。

(さとうひまづる) 演劇評論家 (佐伯明日香)

編集後記

翻訳では消毒や脱臭など様々な薬品や手間をかけ、お金をかけていますが、源流がきれいになればなるほど、薬品や手間の量は減り、かかるお金も減るということ。根っこが大切を改めて感じました。

■先日、畑作業の手伝いで草むしりをしていたときのこと、1ヶ月前に植えたサトイモが発育不良(?)で草を抜くとき一緒に土から出てきます。よくみると、サトイモを上下逆さまに植えていたり(上に伸びるわけがない)、植える間隔が20cm~2mまでと(芽がそろって出てこないはず)、今から収穫の歩留まりのことが心配になります。歩留まりといえば、海の養殖にも同じ考え方があるそうです。稚ガニやエビなどを放流して大きくなったらどのくらい育って収穫できるか、ということで、ちなみに豊前海ではワタリガニが3割、エビが4割もあるそうです。

よかネット NO.40 1999.7

(編集・発行) 株式会社よかネット

(株)九州地域計画研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ5F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社) 株式会社よかネット

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6942-5732

名古屋事務所 TEL 052-265-2401

東京事務所 TEL 03-3226-9130